清川歴史公園かわら版

発行所
清川歴史公園
管理運営委員会
連絡先
庄内町商工観光課
立川地域観光振興係

水駅として栄えた宿場町「清川」

13軒の旅館でにぎわった明治時代

明治末期の清川本町通り（「写真でみる清川の歴史」より）

水駅として栄えた清川は、最上から庄内に入る人、庄内から最上・仙台・東京に出る人の大部分が通るので旅館業が繁盛しました。出羽三山参りのお客様だけで、夏ごろは一日平均七〇〇人から一〇〇〇人ほどの人が宿泊したと言われています。

一八九四（明治二七）年に清川に下り立った田山花袋（文学者）は、最上川の溶々たる流れに心躍らせ、鮎の塩焼きを絶賛したと言われています。

上の写真中央の女性が立っている横の建物は渡辺旅館。旅館前の本町通りを鶴岡と行き来する乗合自動車が走っています。

明治初年の旅館（13軒）

渡辺登弥太	矢口久太郎
門脇善吉	斎藤半九郎
広田文四郎	広田五兵衛
正木正之助	八木平内
五十嵐市助	正木角右衛門
藤田貞斎	成沢蔵治
広田亀吉	

清川歴史公園管理運営委員会では、食堂・売店・ガイドなどにご協力いただける方、一緒に地域を盛り上げていただける方を募集しています。役場商工観光課までぜひお声がけください。
連絡先　〇二三四-五六-二三二三

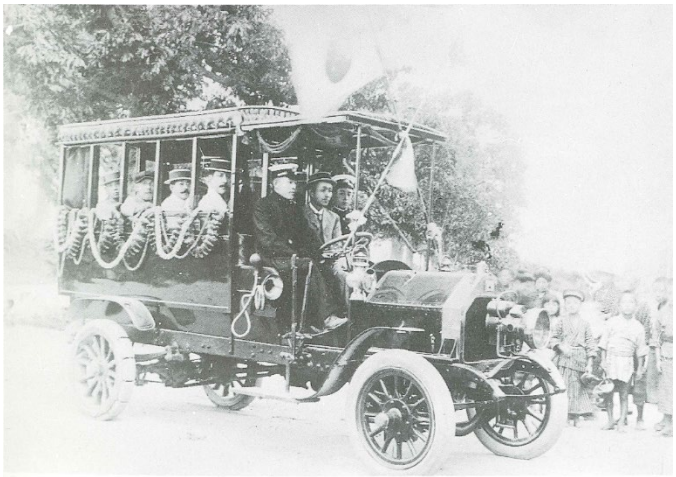
陸上交通の移り変わり

【籠、人力車から自動車へ】

籠と馬の乗物時代から人力車に変わったのが明治初年ごろ。交通の要衝だった清川は人力車業社も年々増して、一九〇七（明治四〇）年ころには一〇〇台以上も運行していました。

【定期自動車の運行】

一九一〇（明治四三）年には、庄内で初めて鶴岡～清川間に定期自動車が運行されました。料金は六十銭（現在の金額でおよそ六〇〇〇円）でした。バスの発達につれて、人力車の姿は次第に見られなくなっていきました。



清川～鶴岡間に運行した定期自動車（鶴岡自動車株式会社）　1910（明治43）年

清川の子どもたち

舟遊び　1952（昭和27）年ごろ
子どもたちにとって、最上川は格好の遊び場でした

カジカ

かんちかしめ
（カジカとり）
1952（昭和27）年ごろ

山車をひいた子どもたち　1935（昭和10）年8月18日

夏の子どもたち

夏になると、最上川は子どもたちの格好の遊び場となりました。清川学校は最上川を公認の水遊び場とし、体を鍛える場としても活用していました。

毎年八月十八日には、御諸皇子神社例祭が盛大に行われ、みこしや山車、獅子踊りで、ますます賑わった清川地内。現在も夏になると、山車作りが行われ、八月十八日には子どもたちが山車を引いて歩きます。

冬は塞の神行事で、子どもたちはデグ様を持って唱言しながら、町内一軒一軒を回りました。

清川駅前広場に集まった山車
一九四四（昭和十九）年八月十八日

冬の子どもたち

清川の塞の神

昔から清川に伝わる民間伝承「塞の神」は庄内の各地でも行われていましたが、清川が最も昔の風情を残していると言われます。塞の神は道を守る神で、黄泉の国から襲い来る疫病や悪魔などを村境や辻などで遮って路上の悪気を祓い、道行く人を守ると言われています。

清川の塞の神の特色は、デグ様という人形を持つこと。人形師が作ったものや、木のこぶを使って作られたものもあり、「ケンケロ」「梅干」「しなもち」「赤でこ」などの名前がついて、髪を振り乱す形相のものや赤黒い顔のものなどグロテスクなものもあります。

雪の御殿林を歩く
ミノボウシ姿の子ども

塞の神行事の神宿を出るところ　1960（昭和35）年ごろ

塞の神のデグ様（人形）

探しています

昔々の書物や写真、食器、御膳など、おうちや蔵に眠っているものはありませんか？

清川歴史公園管理運営委員会では、おじいさんやおばあさんから、ずっと昔に伝えられたものや、家の整理をしていたら「こんなものが出てきたよ」など、情報をお待ちしております。

テレビ番組のような「鑑定」とまではいきませんが、歴史資料として写真を撮らせていただけるようなものを探しています。

ぜひ情報をお寄せください。

【連絡先】
庄内町商工観光課立川地域観光振興係（電話〇二三四-五六-二二一三、FAX〇二三四-五六-二六二八）